

# 第1回稲沢市都市と緑のマスタープラン策定委員会

## 議 事 録

○開催日時：平成30年2月5日（月）14時00分～17時10分

○開催場所：稲沢市役所 議員総会室

○出席委員（敬称略）

竹内 伝史 岐阜大学 名誉教授  
千頭 聡 日本福祉大学 国際福祉開発学部 教授  
嶋田 喜昭 大同大学 工学部 教授  
日比野昭光 祖父江町商工会 副会長  
松岡 重夫 平和町商工会 会長  
渡邊 菱 稲沢市社会福祉協議会 会長  
近藤 治夫 稲沢市まちづくり連絡協議会 会長  
窪崎 香 稲沢市子ども会連絡協議会 会長  
内藤ひろ子 稲沢市連合婦人会 会長  
三好 学 名古屋鉄道株式会社 鉄道事業本部 計画部 事業推進課 課長  
平井 直人 愛知県立稲沢高等学校 教諭  
林 幹郎 市民公募  
佐藤 正光 市民公募  
富田 圭子 市民公募  
八田 陽一 愛知県建設部都市計画課 課長

（代理：志賀雅樹）

桜井 種生 愛知県建設部公園緑地課 課長

（代理：鷺見純良）

水野 悦司 愛知県一宮建設事務所 企画調整監

○欠席委員（敬称略）

小島 洋一 稲沢商工会議所 副会頭  
森 茂樹 愛知西農業協同組合 代表理事専務  
柿 沼 晋 稲沢市老人クラブ連合会 会長

（事務局）

稲沢市長 加藤錠司郎

建設部長 高木信治

【都市計画課】

建設部次長兼都市計画課長 鈴森泰和、統括主幹 高橋靖英、主幹 大野優樹

主査 長崎倫典、主事 山田大心

【都市整備課】

課長 櫛田謙二、主幹 箕浦直哉、主査 久保雅光

## 次第

---

- 1 委員の委嘱
- 2 委員長及び副委員長の選出
- 3 議題
  - (1) 策定方針（案）について
  - (2) 都市計画マスタープランに係る現況把握と基本的課題の整理
  - (3) 緑のマスタープランに係る現況把握と基本的課題の整理
  - (4) 市民・企業アンケート結果について
- 4 その他

## 議事内容

---

### ■委員の委嘱

- ・委員を代表して竹内委員に、市長が委嘱状を交付

### ■委員長及び副委員長の選出

- ・委員長に竹内委員が互選された。
- ・副委員長に千頭委員が指名された。

### ■竹内伝史委員長あいさつ

- ・近代都市計画は 1910 年に始まって以来、人口増加に対応したものであったが、今後は人口減少に対応した都市計画、国土交通省が掲げているコンパクトシティ・プラス・ネットワークを考えていかなければならない。
- ・コンパクトなまちをつくりながら人々の交流は増進していくようなまちづくりをどう実現するかが課題である。

### ■議題（1）策定方針（案）について

- ・「資料①」に基づき、事務局説明
- 【質 疑】
- ・意見なし

### ■議題（2）都市計画マスタープランに係る現況把握と基本的課題の整理

- ・「資料②」、「資料③」に基づき、事務局説明
- 【質 疑】
- （「⇒」は事務局の回答）

### [委員]

- ・愛知県では、平成 30 年度末を目処に区域マスタープランの改定を進めている。稲沢市の都市計画マスタープランが平成 31 年度末に改訂予定ということだが、今後、愛知県の区域マスタープランとの整合を取りながら進めていただきたい。

[委員長]

- ・市街化調整区域内でどのように開発が行われているのか、市街化調整区域内の農地転用を含めた宅地の動きなどの状況がもう少しわかるとよい。
- ・資料 2 の P 13、P 14 について、P 13 のグラフでは、平成 22 年から平成 27 年の 5 年間の人口の動きが大きい。同じように P 14 の図で、市街化区域内で 5 年間に急激に人口増加しているメッシュや、数百人減っているメッシュがある。この状況をどのように考えたらよいのか。  
⇒平成 22 年から平成 27 年の市街化区域の人口増加については、稲沢駅東側の開発によるもので、昭和 60 年から平成 2 年においては、市街化区域の拡大によるものです。

[委員長]

- ・農政の観点で開発公害などの問題があれば、産業政策で整理するのではなく、ここで整理をした方がよい。内容については、後の委員会でご報告いただきたい。
- ・市街化調整区域の人口減少については原因を調べていただきたい。全体的ではなく偏って減少しているところがあれば分析していただきたい。

[委員]

- ・市街化調整区域について、高齢の方が亡くなり、そのまま空き家になってしまったケースが見られる。空き家のデータが資料としてあるとよい。  
⇒担当部署は異なるが空き家のデータは持っている。追って資料としてお示ししたい。
- ・資料 2 の P 91 の 4) 重点戦略で住み慣れた地域での定住という記述があるが、市街化調整区域内に家を建てて住むのは大変困難だという話をよく聞く。住んでいる場所によっては、市外に流出してしまうケースもあると思う。市街化調整区域内の高齢化に対する課題と若い人を呼び込むような施策など、何か考えがあればお聞かせ願いたい。

[委員長]

- ・空き家については調査をしているのか。  
⇒建築課で空き家の条例化をした。今年度中に空き家対策計画を策定することで進めている。都市計画マスタープランへの掲載等については皆様でご議論願いたい。具体的な計画内容やデータ等、全て用意があるので、次回報告させていただく。

[委員長]

- ・稲沢市では隣接市との境界部での転入、転出についての調査はしているのか。  
⇒アンケート調査はしている。定住を希望しているが、家を建てる場所がないため他市町へ転出しているという分析結果を第 6 次稲沢市総合計画で示している。

[委員長]

- ・分析結果を資料 2 の P 6 ③人口動態の社会増減のグラフに反映できないか。転出先をまとめたデータ等でこの部分を補っていただきたい。

[委員]

- ・資料 3 ①都市構造の基本的課題案について、「中心市街地（国府宮駅・稲沢駅周辺）への都市機能の集積」とあるが、具体的にどのような機能を集積しようと考えているのか。また、「人口減少に歯止めをかける住居系新市街地を形成」とあるが、具体的な場所や手法は決まってい

るのか。資料 2 の P 18 の農用地区域図面で市街化調整区域の白地部分は宅地化しやすい土地であり、新市街地の形成となると、この白地部分が該当するのだろうが、農政や集落地整備法、集落地区計画などを用いて計画的に進めていかないといけない。

⇒中心市街地の都市機能の集積について、国府宮駅周辺再整備の勉強会で検討中である。住居系新市街地については、現行の都市計画マスタープランで国府宮駅、稲沢駅からそれぞれ約 1km の徒歩圏内にあたる 3 箇所を重点地区として位置づけている。引き続き、駅徒歩圏内で住居系新市街地の形成をしていきたいと考えている。

[委員]

- ・都市機能の集積については、愛知県の計画は改定中だが、引き続き、国府宮駅周辺になると思う。商業施設だけでなく医療や福祉など、市に必要な機能を集積してコンパクトなまちづくりにつなげていただければよい。住居系新市街地形成に関して、愛知県としても人口が増加傾向にある市町については、市街化区域の拡大という考えもあるため、駅周辺などの市街地拡大は稲沢市と相談しながら進めていきたい。
  - ・資料 2 の P 68 (9) 防災の関連で、昨年、糸魚川市の火災では密集市街地を中心に大きな被害が出た。稲沢市にはそのような問題になるような地区はあるのか。あれば計画中に記載してほしい。
- ⇒一部、密集市街地に該当する旧市街地があるが、改めて検証し回答させていただく。

[委員長]

- ・稲沢市は、非常に災害危険性の低い市だという印象を受けた。最近、産業の立地が進んでいるが、交通結節点が近いだけではなく、安心できる立地条件であることも理由だと思う。全体の現況把握では、そのあたりの記述が少し弱いのではないか。今後、そこを意識していくとよい。

[委員]

- ・市街化調整区域内の農地について、農業従事者の今後の意向も資料に入れていただけるとよい。開発可能な地域が広がるのではないか。資料 2 の P 14 の図面中で人口が減っている部分について、農協が開発した農住団地の空き家が増えているため、それが原因ではないかと思う。貸家の所有者がリノベーションをうまく進められるような施策が必要ではないか。

[委員長]

- ・稲沢市の場合、農住と都市計画の接点が非常に多い。そのあたりの接点について、次回の委員会では議論ができるようにデータ、資料等の準備をお願いしたい。

### ■議題（3）緑のマスタープランに係る現況把握と基本的課題の整理

- ・「資料④」、「資料⑤」に基づき、事務局説明

【質 疑】

[委員]

- ・資料 5 の様式を資料 3 に合わせていただけるとわかりやすくよい。
- ⇒検討させていただく。

[委員長]

- ・都市計画マスタープランと緑のマスタープランは関連がある。都市計画マスタープランでは歴史的な文化遺産に対する記載がなかったが、その部分を緑のマスタープランでしっかりと記載されている。緑のマスタープランで出た意見は、都市計画マスタープランにも反映されると考えてよいか。

[副委員長]

- ・今回の委員会は現況把握と課題抽出という位置づけだが、資料 5 からは稲沢市としての課題が全く見えてこない。稲沢市の場合は、数値目標を掲げ、それに向かって進むというわけにはいかない。今回の資料では項目別に整理はしていただいたが、次回につなげるための方向性が見えてこない。次回までに、稲沢市としての戦略が見えてくるような現況整理や課題整理をお願いしたい。

[委員長]

- ・稲沢市の緑のマスタープランのための調査や分析があるはずなので、おおいに進めていただきたい。

[委員]

- ・祖父江町の木曾川は稲沢市にとっても大きな財産だと思う。木曾川に関連する公園や緑地に関する今後の方針などについて、緑のマスタープランには記載がない。市としてどう考えているのか。  
⇒サリオパーク祖父江は、第 6 次稲沢市総合計画で広域レクリエーション拠点として位置づけている。緑のマスタープランでどのように位置づけていくか今後検討していく。

[委員]

- ・祖父江砂丘は、淡水の砂丘として特に珍しい。活用していけるような方向づけをして欲しい。

[委員長]

- ・市民のための緑地・公園なのか、広域的な緑地・公園なのかを分けて考えていかなければならない。数値的な議論しかされていない。固有名詞を挙げるべき地区や公園などは具体的な活用を議論していくべきではないか。

[委員]

- ・資料 4 の P18 の都市公園の分布状況図を見ると、市の西部には、ほとんど公園がない。市として何か計画を持っているのか。祖父江ワイルドネイチャー緑地内に古い松林があり、20 年ほど前から管理をしている。そこから南に行った長岡地区にも同様の松林があるが、管理はされていない。何らかの理由で使用禁止になっているようだが、散策だけでもできるようにしてはどうか。農村地帯の景観については、荒廃した土地も作物をつければ、農村公園のように自然な形で鑑賞できると思う。荒廃した土地にも対応した計画にしていただければと思う。

[委員長]

- ・計画の方向については、次回の委員会で議論する予定になっている。今の質問に対する応答も次回の委員会で開示いただければと思う。緑の資源の状況については、もっと調べていただく必要があるのではないか。生産緑地に関して、資料 4 の緑のマスタープランでの記載内容は都

市計画マスタープランでの生産緑地の定義にこだわりすぎている。農地のなかでも生産緑地指定を受けているものだけではなく、実際に農耕が行われている緑の分布状況や、その緑が市民にとってどのように重要なのか、活用できるのかをもう一度調べていただきたい。

[委員]

- ・緑のマスタープランについて議論するということは、市のイメージや文化度アップにつながると思う。稲沢市には魅力が多くあり、そのような観点からも議論ができるような項目を都市計画マスタープランや緑のマスタープランに入れてほしい。

[委員長]

- ・緑のマスタープランの現況については、今日の要望に応じた追加整理をしていただきたい。

[副委員長]

- ・現行マスタープランの達成度評価についてもまとめるとよい。

#### ■議題（４）市民・企業アンケート結果について

- ・「資料⑥」、「資料⑦」、「資料⑧」に基づき、事務局説明

【質 疑】

[委員長]

- ・全てのアンケートの集計結果は、次回の委員会までに委員に対して事前配布は可能なのか。  
⇒そのように対応させていただく。

[委員長]

- ・災害の少ない地域だと発言したが、市民は防災・防犯が必要であると考えているようである。そのあたりも含め、次回の委員会で議論したいと思う。